

登場人物

- 加納塔子 (28) 新妻
- 加納塔子 (86) 老人施設、朝霧園入居者
- 智美 (56) 塔子 (28) の母親
- 絵留 (26) 塔子 (86) の孫
- 隣人の女性 (76) 塔子の家の隣人
- 職員 A (23) 施設の新人スタッフ
- 職員 B (45) 施設のベテランスタッフ
- 花屋 (50) 花屋の店主
- 加納衛 (30) 塔子の夫

看護師 A
看護師 B

式の参列者たち

親中不満足は、
金銭で表れ。
→ 老をひねるの
理由。

※ この話は 加納塔子の新婚時代と現在と
1) 表に表します。 塔子(若)・塔子(老)で
表にします。
2) 塔子(若)に 注をつけていかに分りやすくする。
ストーリーはやるつもり。
日曜初回は、

その仮面が不安

七とえい山本さん (76)

みんさん表に
元と分りやすい。
おひさまん
陽さん

○スーパー店内

買い物かごを片手に食料品を選ぶ加納塔子（28）。牛肉と春菊、焼き豆腐、糸こんにゃく、卵をカゴに入れてレジで精算する。財布からお金を出すのに少し手間取るが、きちんと小銭まで出す。

○花屋の店先

塔子が500円の花束コーナーからひとつ花束を選ぶ。愛想の良い花屋の主人（50）が応対する。
花屋「いつもありがとうございます」
軽く会釈してお金を払い花束を受け取る。

○塔子の家・前

塔子が花束とスーパーの袋を手にして家の前まで来ると隣人の女性（76）が家の前で花壇の手入れをしている。
隣人「お帰り、お姉さん」

○塔子の家・中

空っぽの冷蔵庫に買ってきた食料品を丁寧にに入れる塔子。それから花瓶の花をとりかえる。もとの花瓶の花はそうしおれてはいない。
時計（14時40分）を見る。

塔子「あ、行かなきゃ」

あわてて出かける支度をする塔子。
部屋には写真がずらりと並んでいる。
塔子の結婚式の写真。
塔子が赤ん坊を抱いている写真。
制服の女子高生の写真。
夜景をバックにした結婚式の写真。
赤ん坊を抱いた若い家族3人の写真。
お宮参で赤ん坊を抱いた老婦人の写真。

○タイトル「会えるまで」

この財布は、
新婚時代の過ぎの財布か？
それとも現代の老人のほろいる
現代の財布か？
（逃）金ものもろものは死んだとまへ
よいもうか現代のもうか？
と聞いて。
塔子の中では新婚時代の
財布に見えていいる必要がある。
しかし、実は老婦人の。
現代の財布である必要がある。
3/9
そのへんをどうと考えてい
とは思えない伏線。

○（別の日）花屋の店先

塔子が2000円の花束コーナーからひとつ花束を選ぶ。

花屋「いつもありがとうございます。軽く会釈してお金を払い花束を受け取る。」

○バスの中

花束を持ってバスに揺られている塔子。

○大学病院前停留所

バスが停まり、塔子がゆっくり降りてくる。

○大学病院・中

塔子が花束を手に夫、加納衛（30）の病室の前に来る。扉をゆっくりと開く。

塔子「衛さん」

しかし、病室には誰もいない。

塔子「衛さん？」

混乱して気を失う塔子。

遠くで声だけが聞こえる。

看護師A（声）「大丈夫ですかー？」

看護師B（声）「すぐに朝霧園に連絡して」

バタバタとした足音。

○（別の日）スーパー店内

本日特売日の看板。

安い物かごを片手に食料品を選ぶ塔子。特価品のステーキ肉とレタス、トマト、きゅうりをカゴに入れる。

塔子「牛乳切れてたっけ？」

牛乳の賞味期限を見てからカゴに入れる。レジで精算する。財布からお金を出すのに少し手間取るが、きちんと小銭まで出す。

○花屋の店先

塔子が500円の花束コーナーからひと

花屋「しばらくお見掛けしませんでしたね」
軽く会釈してお金を払い花束を受け取る。

○塔子の家・前
塔子が花束とスーパーの袋を手にして家の前まで来ると隣人の女性（76）が家の前を掃除している。
隣人「お帰り、お姉さん」

○塔子の家・中
空っぽの冷蔵庫に買ってきた食料品を丁寧にに入れる塔子。ステーキ肉はタッパーに移し牛乳に浸して冷蔵庫に入れる。
それから花瓶の花をとりかえる。もとの花瓶の花は完全にしおれている。
最初と同じ写真が並んでいる。

老人介護施設
○朝霧園・個室
時計は14時半。
加納塔子（86）（写真の老婦人）が椅子に座って静かに目を閉じている。

新人職員A（23）が入って来る。
が、椅子に塔子の姿は無い。

職員A「加納さん？」
廊下を通りかかったベテランの職員B（45）が慌てて注意する。

職員B「今は探しちゃダメよ」
職員A「え？」
職員B「3時過ぎてからにさい」

職員A「加納さんはね、結婚してすぐに主人が事故にあつてね。亡くなってしまわれたの」

職員A「え・・・」
職員B「心を病んでしまわれてね、でもお腹には赤ちゃんがいて・・・」

職員A「それでどうされたんですか？」

「一回と別になさるわ。」
5/9
「発覚するまで狭い方へ行くかも。」
老人介護施設・朝霧園
○同・個室
「よう、うにうはいい。」

「いまは加納さんとも別れるの？」
「加納さんにはお話を聞いてほしい。御主人が事故にあつて、少しだけ心の病んでしまわれたのよ。」
「・・・」
「でもお腹には赤ちゃんがいて・・・」
「みないにしてあげなさい。」

花屋「しばらくお見掛けしませんでしたね」
軽く会釈してお金を払い花束を受け取る。

○塔子の家・前
塔子が花束とスーパーの袋を手にして家の前まで来ると隣人の女性（76）が家の前を掃除している。
隣人「お帰り、お姉さん」

○塔子の家・中
空っぽの冷蔵庫に買ってきた食料品を丁寧にに入れる塔子。ステーキ肉はタッパーに移し牛乳に浸して冷蔵庫に入れる。
それから花瓶の花をとりかえる。最初の花瓶の花は完全にしおれている。最初と同じ写真が並んでいる。

老人介護施設
○朝霧園・個室
時計は14時半。
加納塔子（86）（写真の老婦人）が椅子に座って静かに目を閉じている。

新人職員A（23）が入ってくる。
が、椅子に塔子の姿は無い。

職員A「加納さん？」
廊下を通りかかったベテランの職員B（45）が慌てて注意する。

職員B「今は探しちゃダメよ」
職員A「え？」
職員B「3時過ぎてからにさい」

職員B「加納さんはね、結婚してすぐに主人が事故にあつてね。亡くなってしまわれたの」

職員A「え・・・」
職員B「心を病んでしまわれてね、でもお腹

職員A「赤ちゃんがいって・・・」
職員A「それでどうされたんですか？」

「個室にさるわ。」
5/9
「個室はもう狭いから、病室に分けよう。」
「個室はもう狭いから、病室に分けよう。」

○老人介護施設・朝霧園
○同・個室
のようにはきれいな。

「加納さんはね、結婚してすぐに主人が事故にあつてね。亡くなってしまわれたの」
「え・・・」
「心を病んでしまわれてね、でもお腹赤ちゃんがいって・・・」
「それでどうされたんですか？」
「お母さんにはまだ・・・」
「お母さんにはまだ・・・」

間取るが、きちんと小銭まで出す。

○花屋の店先

花屋「塔子(86)が500円の花束コーナーからひとつ花束を選ぶ。いつもありがとうございます」軽く会釈してお金を払い花束を受け取る。

○塔子の家・前

塔子(86)が花束とスーパーの袋を手にして家の前まで来ると隣人の女性が隣人「お帰り、お姉さん。お孫さん、結婚だって? お祝い言おうと思って」塔子「・・・?」よく聞こえなかったが、会釈して家に入る。

○塔子の家・中

空っぽの冷蔵庫に買ってきた食料品を丁寧に花を入れる塔子(86)。それから花瓶の花をとりかえる。もとの花瓶の花はそうしおれてはいない。最初と同じ写真が並んでいる。塔子の結婚式の写真(衛と2人)。塔子が赤ん坊を抱いている写真。制服姿の塔子の娘の写真。夜景をバックにした塔子の娘の結婚式の写真。赤ん坊の絵留を抱いた娘家族3人の写真。お宮参で絵留を抱いている塔子の写真。その写真をしばらく眺める。

○結婚式場・教会

絵留がウエディングドレスで式を挙げている。満足そうに参列している留袖姿の塔子。

